



生徒の実態

- 誠実さ、堅実さ、謙虚さを持っている生徒
- 礼儀正しく、挨拶のできる生徒
- 相手の立場になって考えられる生徒
- 争いごとを嫌う生徒
- 認められたいという思いの強い生徒
- 違いをきらう、Noと言えない生徒 (4人グループでも差異を出しにくい)
- 心をひらけない生徒 (自分を出せない)
- 自尊感情が低い生徒
- 限られた対人関係の中にいる生徒
- 「もっとこうしたい」という自己主張や新たなことに挑戦しようという意識が乏しい生徒
- 学校生活に息苦しさや居心地の悪さを感じている生徒



自己指導能力育成

○育成のための4視点

1. 自己存在感の感受を促進する
自分も大切にされているという実感
2. 共感的な人間関係を育成する
認め合い・励まし合い・支え合える
集団作り
3. 自己決定の場を提供する
自ら考え、選択し、決定する場
4. 安全・安心な風土を醸成する
個性や多様性を認め合い、安全・
安心な学校生活
(『R4 生徒指導提要』より)

令和6年度の重点

- ＜**出会いと対話**＞ (全教育活動の中で大切に作る)
(他者によって) **気づき直し** (自らを) **問い直し** (新たな自分を) **編み直し** していく
- ＜**伝統を受け継ぐ気風**＞ (大切にしてきた**伝統をプライドへ**)
合言葉「**き・じ・ま**」(きれいな**歌声**・地道な**清掃**・真心**挨拶**)

求められる教職員の姿

- ・生徒の命と安全を守る。
- ・夢や可能性を育む専門性を磨き、人間力を高めるために学び続ける。

そのために、

- ・目の前の子どもを主人公とした教科の**真正性を探究する授業づくり**
- ・子どもにとって最大の理解者、支援者。
- ・教師主導の画一的な教育、一斉一律の教育ではなく、生徒主体の「自律した個の学び」「探究的な学び」を大切にする。
- ・「ひと・もの・こと」との出会いと対話によってひらかれた人間関係の構築
- ・リフレクション (生徒の学びの事実をもとに、授業記録、研修授業を用いて行う)
- ・自主公開学習検討会を研修の柱とし、各自の自己テーマ(課題)を明確にしなが**ら授業づくりの質の向上をめざす**。
- ・教師自ら地域とかかわり、研修を通して**人権意識を磨く**。



ふるさと教育

- ・総合的な学習の時間(輝け未来塾)において、「ひと・もの・こと」との「出会いと対話」を通して、からだで実感し、願いや思いを発信する力を醸成する。
- ・木島平の文化や伝統を再発見する場やルクセンブルク交流での異文化体験等、文化を育む学校環境づくりを目指す。
- ・地域を学ぶ (教科等と関連させて)
- ・地域で学ぶ (教室から出て直接学ぶ)
- ・地域と共に学ぶ (地域の課題を地域の一員として解決していく)
- ・学校運営協議会と連携し、家庭や地域が小中一貫教育に参画できる環境を整え、生徒のふるさと木島平への誇りと愛着を育てる。

思いやりと活気に満ちた学校生活づくり

- ・自ら「創る」感覚を醸成し、自己実現につながるエネルギーを引き出せるよう、日常的な生徒会活動や学校・学年行事における役割と分担を、生徒自らが主体となって取り組む場を大事にし、自主・自立の精神を育む。
- ・多様な考えや価値に触れられる機会を位置づける(異年齢同士のかかわり・多種多様な話)(全校道徳・学年縦割活動・生徒集会等の各種集会・講演会等)。
- ・人権意識を健全に育てるために、個人が互いに尊重される環境・人間関係・授業づくりに取り組む。(人権同和教育の充実)

安心安全な学校づくり

- ・「学びは独りからは生まれない」を合言葉に「ひと・もの・こと」との対話による4人グループの学び合いを授業づくりの根底に据える(小中一貫)。
- ・今の自分を受け入れ、他者に心と体をひらいて安心してつながり合える学年・学級づくり(その子の葛藤に気づき、問い直しながらその子が一歩踏み出していける**学級づくり**)
- ・安心安全に過ごすことができる校内環境(安心安全な居場所の保障)(SSW・SC等との連携)(各種アンケートによる**実態把握**)(年3回の**教育相談**)(**心身の健康保持**・**食育推進**)(家庭・地域との連携)
- ・保護者、地域への発信(HP・学校・学年学級通信)

学校教育の充実を図る基盤 1
「協同的な学び」でつなぐ**小中一貫**の学校づくり

学校教育の充実を図る基盤 2
木島平型コミュニティ・スクールの充実